

無痛分娩で行う分娩誘発についてのご説明

患者様のお名前 @Patient.Name 様 (@Patient.ID)

主治医 @User.ActiveUserName (@Patient.ConsulInfoSelectedSectionName)

同席者(所属)

	@Disease.History
手術名、内容 治療に関連する 危険性	無痛分娩の詳細につきましては担当医の説明と 2 枚目以降の説明をよくお読みになってください。 計画的に分娩を行うためには誘発剤(子宮収縮薬)を使用することが必要となります。入院当日に子宮口の開大を医師が確認し状態により、子宮頸管拡張処置を行います。(必要のない方もいらっしゃいます。)無痛分娩当日の朝から誘発剤の点滴を開始し、陣痛発来した段階で麻酔を開始いたします。 ① 頸管熟化処置(吸湿性頸管拡張材、メロイリント、プロウペス) 【目的】頸管(子宮口)が熟化していない状態で子宮収縮薬を使用しても、陣痛が起こらない可能性が高いため、先に頸管を熟化させる処置が必要です。下記の方法から状況に応じて選択します。 【方法】 ・<u>吸湿性頸管拡張材</u>:頸管内に細い棒状の素材を挿入します。素材が徐々に膨張することにより子宮口が開きます。通常はメロイリントが挿入できない場合に使用します。 ・<u>メロイリント</u>:子宮口を通じて、小さな風船状の素材を子宮内に挿入します。子宮収縮が増えることにより、頸管熟化および陣痛発来が期待できます。 ・<u>プロウペス</u>:腔内に挿入する紐状の薬剤です。頸管熟化効果があります。 【起こりうる合併症】<u>子宮内感染</u>:子宮内に人工物を挿入するため、細菌が混入し感染に至ることがあります。<u>子宮頸管損傷</u>:吸湿性頸管拡張剤の挿入により損傷することがあります。<u>子宮臍帯下垂・脱出による重症胎児機能不全</u>:臍帯脱出は分娩に伴う稀な重症合併症ですが、メロイリント使用後はやや頻度が増加する可能性が指摘されています。<u>過強陣痛・胎児機能不全</u>:プロウペスにより過強陣痛や胎児機能不全が生じることがあります。 ② 子宮収縮薬(オキシトシン) 【方法】 ・<u>オキシトシン</u>(注射薬):点滴で持続的に投与します。陣痛の程度を観察しつつ少量から徐々に増量します。投与可能範囲の最大量でも陣痛が発来しない場合は、投与を終了し、その日の誘発は終了します。 【起こりうる副作用】 母体の重大な副作用として子宮破裂、心停止、呼吸困難などの報告がありますが、いずれも非常にまれと考えられています。過強陣痛や胎児機能不全が 1-2%程度に生じるため、胎児心拍と陣痛をモニタリングしながら投与します。

- ☐私は上記の内容について説明を受け、十分に理解いたしました。分娩に必要と考えますので、手術・検査・処置を受けることについて同意いたします。
- ☐私は上記の内容およびこれを行わない場合の危険性について説明を受け、十分に理解しましたが、手術・検査・処置は受けないことにいたします。
- ☐その他

年 月 日

患者氏名

代理人

(続柄) _____

無痛分娩説明書

無痛分娩とは

無痛分娩とは麻酔を用いて痛みを和らげながら出産することです。

そのため無痛分娩を行う最大のメリットは産痛の軽減ということになります。

ただし、痛みの感じ方は個人や分娩の進行度合いによって異なるため、痛みが完全になくなるわけではありません。

★イメージとして、産痛を3割程度にすると考えていただくと良いです。

当院における無痛分娩の麻酔方法について

当院では、硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔という麻酔方法を用いて無痛分娩を行っています。硬膜外麻酔とは硬膜外腔という神経が集まる場所の近くに麻酔薬を投与することで痛みを和らげる麻酔方法で、出産の痛みを和らげるのに最も効果的な方法といわれています。

また、お母さんと赤ちゃんにとっても影響が少ないのが特徴です。脊髄くも膜下麻酔を併用することで、痛みを速やかに和らげる効果があります。

なお、詳しい麻酔の詳しい内容については麻酔科受診時に麻酔科の医師から行う予定です。

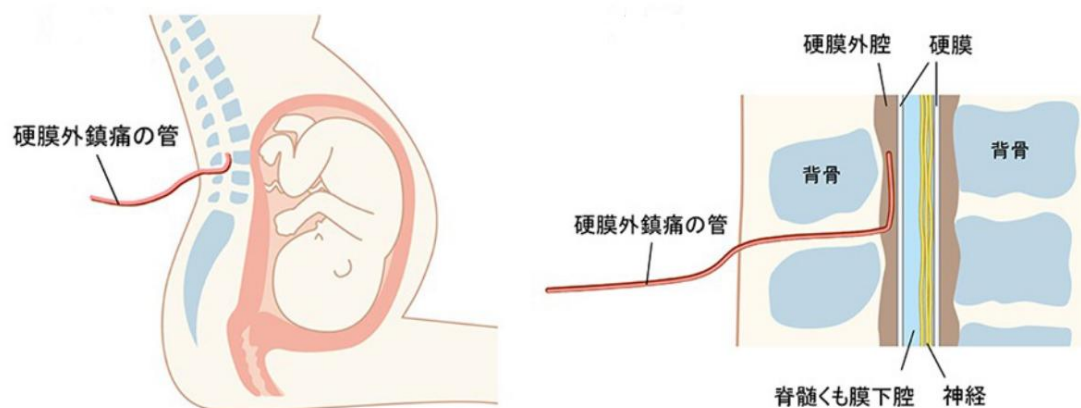


図1 硬膜外麻酔(日本産科麻酔学会 HP より抜粋)

無痛分娩の流れ

当院の無痛分娩は原則計画分娩です。

計画分娩の内容については、分娩誘発の説明書を参照してください。

1. 入院当日、子宮口が十分に開いていない場合は頸管拡張を行います。
2. 誘発剤(点滴)を開始し陣痛発来した時点から麻酔を行います。
3. 無痛分娩中は食事できません。水、お茶、スポーツ飲料等の摂取は可能です。
4. 血圧や心拍数等、お母さんの状態をモニターします。
5. 麻酔科医師により麻酔の処置を行います。ベッドの上で横になる、あるいは座ることで背中を丸くします。(図2)
6. 背中に針を刺し、硬膜外腔に細い管を入れます。
7. 硬膜外腔に入れた管から麻酔薬を投与します。
8. 麻酔開始後、歩行はできません。2時間ごとに導尿します。
9. 無痛分娩中に強い痛みを感じたら、麻酔薬の量を調節します。
10. 分娩終了後、硬膜外腔に入れた管は抜きますので、鎮痛剤を内服してください。

★計画分娩前に陣痛発来した場合は、原則として無痛分娩はできません。

★誘発剤を使用しても陣痛発来しない場合は、翌日に再度分娩誘発を行います。無痛分娩ができないこともあります。



横になって麻酔を行う場合



座って麻酔を行う場合

図2 硬膜外麻酔の姿勢（日本産科麻酔学会 HP より抜粋）

硬膜外麻酔の合併症よく起こるもの

1. 無痛分娩開始とともに足の感覚が鈍くなったり、力が入りにくくなったりしますので、ベッド上で安静にしてください。
2. 麻酔薬の影響で血圧が低下することがあります。血圧が低下したときは、体の向きを変えたり、血圧を上げる薬を投与したりします。
3. 尿をしたい感じが弱くなり、尿を出しにくくなります。分娩中は定期的に導尿します。
4. 無痛分娩開始とともに、皮膚にかゆみができることがあります。
5. 分娩中に体温が上がる場合があります。

まれに起こるもの

1. 硬膜穿刺後に頭痛が起こる場合があります。安静にしたり、薬を飲んだりして経過を診ます。
2. 局所麻酔薬の過量投与や血管内への注入により、血液中の局所麻酔薬の濃度が高くなり、舌のしびれや耳鳴りが起こることがあります。さらに麻酔薬の濃度が高くなると、けいれんや不整脈が起こることがあります。
3. お尻や太ももに電気が走るような感覚が起こることがあります。
4. 脊髄くも膜下腔に麻酔薬が入ってしまうことがあります。硬膜外腔に注入するはずだった薬剤が脊髄くも膜下腔に入ってしまうと麻酔の効果が急速に強く現れたり、血圧が急激に低下したりします。重症では呼吸ができなくなったり、意識を失ったりすることがあります。
5. 硬膜外腔に血のかたまりや膿のかたまりができることがあります。かたまりにより神経を圧迫されている場合は永久的な神経の障害が残ることがあるため、できる限り早期に手術してかたまりを取り除く必要があります。
6. 分娩中の神経圧迫や伸展、麻酔の影響で分娩後に末梢神経の麻痺が発生することがあります。治癒するまでに数か月から数年かかることがあります。
7. 陣痛がわかりにくくなるため、分娩誘発・促進剤の合併症である子宮破裂が発見しにくいことがあります。

★以上のような合併症があるため、無痛分娩は普通分娩と比べて安全管理のために人員を要します。このため、分娩が夜間になった場合など、安全な管理が不可能と判断した場合は、やむを得ず無痛分娩を中止することがあります。

★できる限り皆様の無痛の希望にお応えできるよう分娩を日中に終わらせるため、誘発剤の使用は多くの場合必須であり、その他にも分娩が進むよう様々な産科的介入（人工破膜など）を行ってお手伝いすることが必要となります。これらの介入を行うことにより自然分娩とは異なるリスクが伴います。

出産と赤ちゃんへの影響

1. 子宮の出口が完全に開いてから赤ちゃんが産まれてくるまでの時間が長くなる場合があります。
2. 吸引や鉗子による分娩が多くなるといわれています。
3. 帝王切開率は上がらないといわれています。
4. 無痛分娩を開始してすぐに、赤ちゃんの心拍数が一時的に低下する場合があります。通常一過性ですが、時間が経っても赤ちゃんの心拍が戻らない場合は緊急帝王切開術になる可能性があります。

硬膜外麻酔をしてはいけない場合について

以下の場合、希望していても無痛分娩を行うことはできません。

- 血液が固まりにくい体質や血液をさらさらにするような薬剤を使用している場合：硬膜外麻酔による硬膜外血腫が生じやすくなります。
- 大量出血や脱水等によって血圧が低い場合：麻酔薬により血圧がさらに低下する危険性が高くなります。
- 背骨に変形がある場合：硬膜外麻酔の処置が困難です。
- 背中の神経に病気がある場合：神経の近くに麻酔薬を投与できません。
- 背中の針を刺す部位に膿がたまっている場合、発熱など全身の感染を疑う症状がある場合：菌がいない硬膜外腔に針を刺すことで菌が入り込む危険性があります。
- その他、医師がしてはいけないと判断した場合

無痛分娩の費用

無痛分娩は保険診療範囲外のため自費診療で、費用は以下の通りです。

- 無痛分娩：120,000 円（正常分娩の費用に追加されます。）
- 無痛分娩に必要な検査、麻酔科受診：約 30,000 円
- その他誘発分娩に関わる費用：1 日 5 万円前後（分娩までにかかる日数と使用した材料によって変動します。）